

調剤過誤を防ぐためのインシデントの重要性について

小貫 知信、細谷 義長、加藤 博文、田口 雅一、牧島 義明

< 目的 >

リスクマネジメントは薬剤師に課せられた基本的な役割である。調剤過誤を減らすためにはどのようにすれば良いかを考え、インシデントの分析・評価を行ってきた。H18年10月よりインシデントの報告を義務化しデータの収集し検証を行ってきた。インシデントの発生時刻、内容、インシデントの発生件数に対する過誤の割合、処方枚数に対するインシデント・過誤の発生率を検証したので報告する。

< 方法 >

H18年10月よりインシデントの報告書の書式を統一しデータの収集を行ってきた

- ・ 報告書の入力フォームをより簡便にできるよう変更
- ・ 薬剤の取り違いに関しては、正誤の薬品名も報告義務付ける。
- ・ 調剤過誤については店舗名・当該薬剤師名等、個人を特定できる内容を伏せて全店舗にフィードバックする。
- ・ 全店舗にアンケートを実施する。

< 結果 >

インシデントの発生件数の低下に伴い、アクシデントの発生件数も低下している。インシデントの報告を義務化し、そのデータをフィードバックしたことはインシデント・アクシデントの減少に何らかの効果があったの確かである。

< 考察 >

調剤過誤を減少させるには、インシデントを減少させるのが有効であるのは明らかである。今まで行っていなかった過誤内容のフィードバックも他店舗において、どのような過誤が発生しているのかを知るためには有効であったと思われる。

< 課題 >

- ・ 当社では二次元バーコードを導入している店舗がある。今後は手入力と二次元バーコードの店舗の解析をし検証を行っていきたい。
- ・ アンケート結果をいかにインシデント、過誤の減少につなげられるか。